

平成27年度八重山群島病害虫発生予報第9号(12月予報)

I 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	60	40	20
平年並	30	40	40
低い(少ない)	10	20	40

(平成27年11月19日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	20.1	22.7	18.0	126.3	100.7

(沖縄気象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

II 12月の発生予報および防除上の注意事項

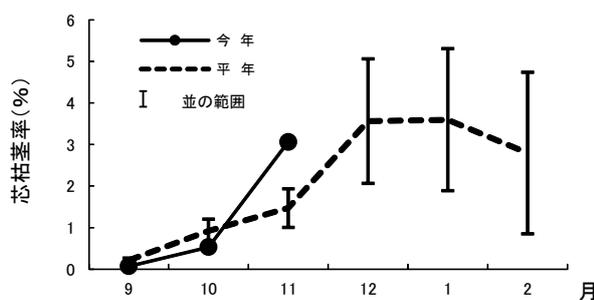
1 さとうきび

(1) カンシャシクイハマキ

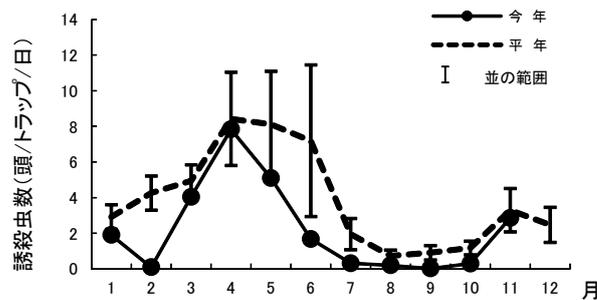
発生程度 : 多

予報の根拠

- 11月下旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は3.1%(前年2.4%、平年1.5%)と平年より高かった。
- 11月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.9頭(前年2.1頭、平年3.3頭)と平年並であった。



新植夏植ほ場における芯枯茎率の推移



カンシャシクイハマキの誘殺虫数の推移

<防除上注意すべき事項>

- ふ化した幼虫は葉裏や葉梢部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時の防除を徹底する。
- ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 平成27年度病害虫発生予報第1号(平成27年4月30日付)コラム参照。

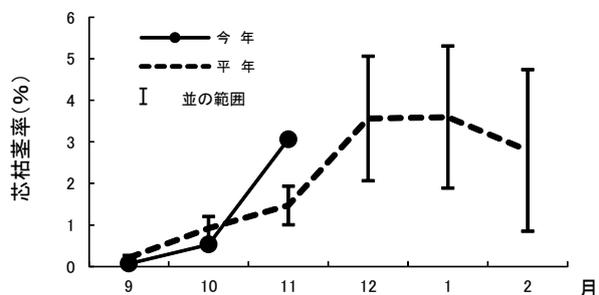
(2) イネヨトウ

発生程度 : 多

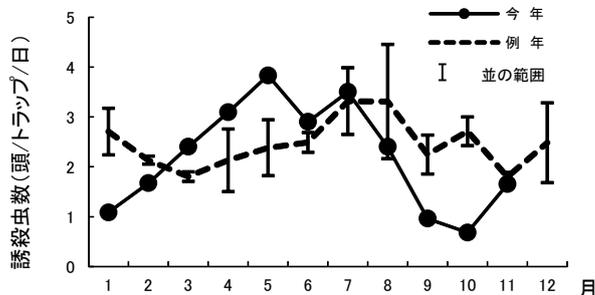
予報の根拠

a 11月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は3.1% (前年2.4%、平年1.5%)と平年より高かった。

b 11月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.7頭 (前年1.6頭、例年1.8頭)と例年よりやや少なかった。



新植夏植ほ場における芯枯茎率の推移



イネヨトウの誘殺虫数の推移

<防除上注意すべき事項>

a 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉梢部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。

b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。

c ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。

d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元

の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。

e 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

f 平成27年度病害虫発生予報注意報第1号(平成27年4月30日付)参照。

g 平成27年度病害虫発生予報第6号(平成27年8月27日付)コラム参照。

2 マンゴー

(1) チャノキイロアザミウマ

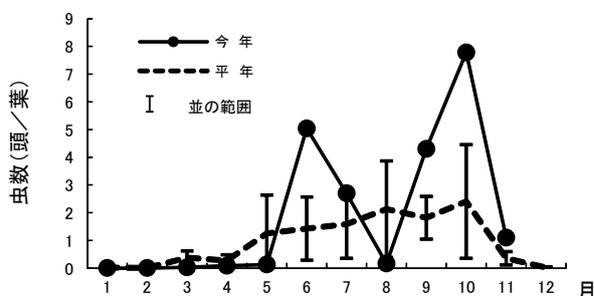
発生程度 : やや多

予報の根拠

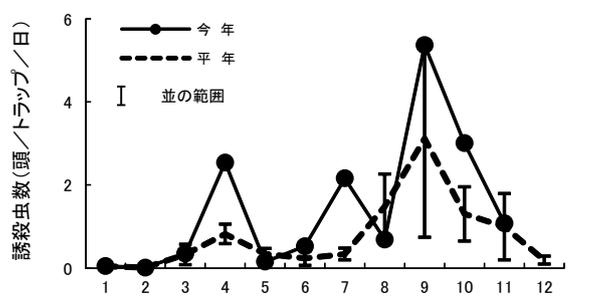
a 11月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は1.1頭(前年0.2頭、平年0.4頭)と平年より多かったが、特に一部施設で多かった。

b 11月の黄色粘着トラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.1頭(前年0.1頭、平年1.0頭)と平年並であった。

c 気象予報によると、12月の前半は平年よりも気温が高く予想されており、チャノキイロアザミウマの発生源である新梢が発生する可能性がある。



チャノキイロアザミウマの発生推移



チャノキイロアザミウマの誘殺虫数の推移

<防除上注意すべき事項>

a 不用な新梢等を除去し、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。

b 発生源となる施設内外の雑草を除去する。

c 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

d 平成27年度病害虫発生予報第5号(平成27年7月27日付)コラム参照。